

# 名古屋大学

## 国際言語文化研究科

### 全学向け授業案内

#### 「外国語特別研修コース」について

国際言語文化研究科全学向け授業は「外国語特別研修コース」からなっています。  
「外国語特別研修コース」はいわゆる演習を主体とした少人数による外国語授業です。  
皆さんの積極的な受講を期待しています。

2010年度前期



〈学部学生の皆さんへ〉

「全学向け授業」として登録する場合は、本冊子に従って手続をしてください。全学教育科目の「言語文化Ⅱ」として登録する場合は、教養教育院作成の「履修に関する注意事項」に従って教養教育院事務室にて手続をしてください。

I. 授業科目（授業時間割表及び授業要覧は7ページ以降に掲載）

**外国語特別研修コース**

科 目		開講期間		科 目		開講期間	
		前期	後期			前期	後期
英 語	特別英語セミナー（Writing） a	○	—	ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 ロ シ ア 語	Level 1 a	○	—
	特別英語セミナー（Writing） b	—	○		Level 1 b	—	○
	特別英語セミナー（Presentation） a	○	—	中 国 語 ス ペ イ ン 語 朝 鮮・韓 国 語	Level 2 a	○	—
	特別英語セミナー（Presentation） b	—	○		Level 2 b	—	○
	特別英語セミナー（Reading） a	○	—	ポ ル ト ガ ル 語 ラ テ ン 語 古 典 キ リ シ ア 語 イ タ リ ア 語	Level 1 a	○	—
	特別英語セミナー（Reading） b	—	○		Level 1 b	—	○
	特別英語セミナー（Certificate Tests） a	○	—	オランダ語	Level 1	○	—
	特別英語セミナー（Certificate Tests） b	—	○	アイヌ語	Level 1	—	○
	特別英語セミナー（Specific Purposes） a	本年度は開講しない					
	特別英語セミナー（Specific Purposes） b	本年度は開講しない					

注）Level 1, 2は、この順で授業内容が高度になります。

II. 授業期間・休業日・休講日・授業時間帯

1. 授業期間

前期：2010年4月13日（火）～ 2010年7月23日（金）

後期：2010年10月1日（金）～ 2011年1月27日（木）

2. 休業日

夏季休業期間：2010年8月8日（日）～ 2010年9月30日（木）

冬季休業期間：2010年12月28日（火）～ 2011年1月7日（金）

3. 休講日

名大祭期間：2010年6月3日（木）午後～ 6月6日（日）

大学入試センター試験実施準備：2011年1月14日（金）（予定）

4. 定期試験期間

前期：2010年7月26日（月）～ 8月6日（金）

後期：2011年1月28日（金）～ 2月10日（木）

5. 授業時間帯

第1時限 8：45～10：15

第2時限 10：30～12：00

第3時限 13：00～14：30

第4時限 14：45～16：15

第5時限 16：30～18：00

III. 受講対象者

受講対象者は、本学の学部学生、大学院生、研究生等及び本学職員です。

ただし、科目等履修生、聴講生は受講できません。

#### IV. 休講等

各授業科目の休講、教室変更、授業に関することは、全学教育棟本館1階「全学向け授業」掲示板（5ページ配置図参照）で通知します。

#### V. 成績の通知

成績評価の通知は以下のとおり行います。

1. 学部学生、大学院生、研究生等については、各部局長あてに通知します。
2. 職員については、本人に通知します。

#### VI. 受講の辞退

事情により学期途中で受講できなくなった場合には、文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口で交付される所定の「全学向け授業辞退届」を、必ず授業担当教員に提出して下さい。この手続きを行わずに受講放棄すると、以後、受講を認めないことがあります。

#### VII. 受講申込み手続き

##### 外国語特別研修コース

##### 特別英語セミナー

**[4月19日(月)～4月23日(金)] から開講します。**

受講手続きは、次のとおりです。

1. 受講申込カード（黄色の4連カード）配付場所及び申込場所  
文系総合館1階 文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口（6ページ配置図参照）
2. 申込期間及び時間 期 間：2010年4月13日（火）、14日（水）  
時 間：9：00～12：00、13：00～17：00

\*英語受講申込カードは、この期間以外には配付しません。また、受講申込は、申込期間以降は受け付けませんので注意してください。

3. 受講申込カード記入・提出について

受講希望者は、「受講申込カード」に必要事項を記入のうえ、申込期間中に文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口へ提出してください。特に以下の①・②については、注意事項をよく読んで記入してください。提出の際には、本人保存用及び教員保存用の紙片を返却しますので、教員保存用の紙片は第1回目の授業時に授業担当教員に渡してください。また、本人保存用の紙片に記載してある受講受付番号により受講調整結果を掲示しますので、結果の確認には必ずその紙片を持参してください。なお、受講する授業が決定した後も、本人保存用紙片は保管しておいてください。

- ①『TOEIC 等点数』

「特別英語セミナー」の受講を希望する人は全て、TOEIC 公開試験等の英語検定試験によって得た自分の英語力の点数を受講申請の際に記入せねばなりません。TOEIC 等の受験は各自で行ってください。

TOEIC 等の英語検定試験によって知り得た自分の点数あるいは級数を確認して申請してください。なお、申請時に下記基準を満たしていることを証明する得点証明書（有効期限は2年間）を持参してください。得点証明書は原本を提出してください。確認・複写後、返却します。下記基準を満たしていない場合は、受付できません。

名 称	申 請 基 準
TOEFL-ITP	527以上
TOEFL-PBT	527以上
TOEFL-CBT	197以上
TOEFL-iBT	71以上
TOEIC	663以上

※いずれの検定試験も正規の公開試験の結果のみを基準とする（TOEFL-ITPを除く）。

②『希望するクラス』

受講したいクラスを1つ記入してください。

4. 受講調整結果の発表

受講希望者が受講可能人数を超える場合は、提出された「受講申込カード」のデータをもとに受講調整を行い、各授業の受講者を決定します(決定後の問い合わせには応じません)。受講調整の結果は、4月19日(月)9時までに全学教育棟本館1階「全学向け授業」掲示板(5ページ配置図参照)に掲示します。

定員に限りがあるので、受講希望者が全員受講できるとは限りません。

5. 第1回目の授業を無断で欠席した場合は、受講放棄とみなしますので、ご注意ください。この件に関する質問に対して、文系教務課(国際言語文化研究科)は対応しません。
6. 決定された授業からの辞退は認められません。
7. 外国語特別研修コースの特別英語セミナーは、授業の種類にかかわらず、一期に一クラスしか受講できません。

英語以外の外国語

全学向け授業としては、前期授業期間の第2週〔4月20日(火)～4月26日(月)〕から開講します。受講手続きは、次のとおりです。なお、希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。

1) 受講申込カード配付場所

文系総合館1階 文系教務課事務室(国際言語文化研究科)窓口(6ページ配置図参照)

2) 配付期間及び時間

期 間：2010年4月13日(火)～26日(月)

時 間：平日 9:00～17:00

3) 配付カード

青色(3連)

4) 受講登録手続

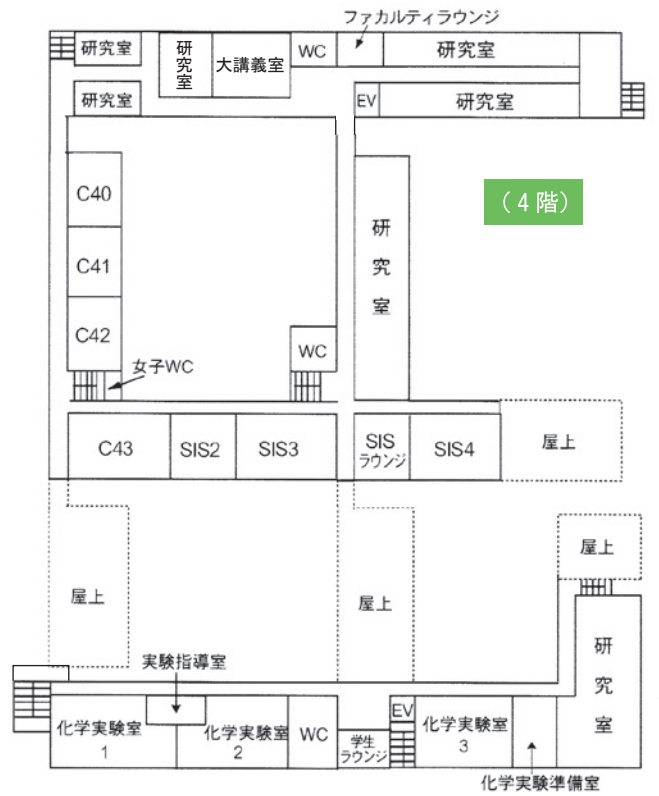
第1回目の授業時〔4月20日(火)～26日(月)〕に受講が許可された授業科目について、「受講申込カード」のうち教員保存用の紙片を授業担当教員に渡し、事務室保存用の紙片を文系教務課事務室(国際言語文化研究科)窓口の「受講申込カード提出用ボックス」に提出してください(締切厳守)。

期 間：2010年4月20日(火)～4月27日(火)

時 間：平日 9:00～17:00



《全学教育棟本館（情報文化学部）》



文系総合館 1F



(1階)



## 2010年度前期・授業時間割表

### 「外国語特別研修コース」

	授業科目	記号	担当教員	曜日(時限)	教室	定員	備考
英 語	特別英語セミナー (Writing) a	A	MORITA CHUA LIANG	月(4)	C12	20	
	特別英語セミナー (Writing) a	B	MORITA CHUA LIANG	火(2)	C31	20	
	特別英語セミナー (Writing) a	C	POTTER SIMON R.	金(2)	S18	20	
	特別英語セミナー (Presentation) a	D	MORITA CHUA LIANG	火(4)	S14	20	
	特別英語セミナー (Presentation) a	E	POTTER SIMON R.	水(4)	S18	20	
	特別英語セミナー (Presentation) a	F	POTTER SIMON R.	木(4)	A16	20	
	特別英語セミナー (Reading) a	G	MORITA CHUA LIANG	月(3)	A13	20	
	特別英語セミナー (Reading) a	H	MORITA CHUA LIANG	水(3)	S17	20	
	特別英語セミナー (Reading) a	I	POTTER SIMON R.	木(3)	A12	20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) a	J	岩城 奈巳	火(2)	CALL4	20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) a	K	松原 緑	木(2)	サハラB	20	
ドイツ語	ドイツ語 Level 1a		須藤 勲	水(1)	S15	20	後期(高畑)に継続
	ドイツ語 Level 2a		M. Koch	金(3)	S14	20	後期に継続
フランス語	フランス語 Level 1a		飯野 和夫	火(5)	S13	20	後期に継続
	フランス語 Level 2a		S. Tadokoro	木(5)	S10	20	後期に継続
ロシア語	ロシア語 Level 1a		郡 敏子	火(2)	A17	20	後期に継続
	ロシア語 Level 2a		山崎 タチアナ	金(4)	S12	20	後期に継続
中国語	中国語 Level 1a		加納 光	水(1)	S18	20	後期に継続
	中国語 Level 2a		劉 欣	水(3)	S18	20	後期に継続
スペイン語	スペイン語 Level 1a		宮下 克子	水(4)	S17	20	
	スペイン語 Level 2a		川田 玲子	木(4)	S18	20	
朝鮮・韓国語	朝鮮・韓国語 Level 1a		崔 昇浩	金(3)	S18	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		李 光済	金(4)	S18	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		飯田 秀敏	火(5)	北棟107	20	後期に継続
ポルトガル語	ポルトガル語 Level 1a		重松 由美	木(2)	C14	20	後期に継続
ラテン語	ラテン語 Level 1a		有川 貫太郎	水(4)	CALL2	20	後期に継続
古典ギリシア語	古典ギリシア語 Level 1a		有川 貫太郎	水(5)	CALL2	20	後期に継続
オランダ語	オランダ語 Level 1		小坂 光一	水(2)	CALL3	20	
イタリア語	イタリア語 Level 1a		A. Sciucca	水(4)	S19	20	後期に継続
ベトナム語	ベトナム語 Level 1a		金村 久美	金(4)	S15	20	

注) 講義室の表示について

○「C10」(Cで始まるもの), 「CALL1」(CALL教室), 「サハラB」: 全学教育棟本館  
 ○「S19」(Sで始まるもの): 全学教育棟本館南棟

○「A34」(Aで始まるもの): 全学教育棟A館  
 ○「北棟107」: 全学教育棟本館北棟1階

## 2010年度後期・授業時間割表

### 「外国語特別研修コース」

	授業科目	記号	担当教員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	特別英語セミナー (Writing) b	A	POTTER SIMON R.	月(4)		20	
	特別英語セミナー (Writing) b	B	未 定	火(2)		20	
	特別英語セミナー (Writing) b	C	未 定	金(2)		20	
	特別英語セミナー (Presentation) b	D	未 定	火(4)		20	
	特別英語セミナー (Presentation) b	E	未 定	水(4)		20	
	特別英語セミナー (Presentation) b	F	POTTER SIMON R.	木(4)		20	
	特別英語セミナー (Reading) b	G	MORITA CHUA LIANG	月(3)		20	
	特別英語セミナー (Reading) b	H	MORITA CHUA LIANG	水(3)		20	
	特別英語セミナー (Reading) b	I	未 定	木(3)		20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) b	J	岩城 奈巳	火(2)		20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) b	K	松原 緑	木(2)		20	
ドイツ語	ドイツ語 Level 1b		高畑 祐人	火(1)		20	前期(須藤)から継続
	ドイツ語 Level 2b		M. Koch	金(3)		20	前期から継続
フランス語	フランス語 Level 1b		飯野 和夫	火(5)		20	前期から継続
	フランス語 Level 2b		未 定	月(5)		20	前期から継続
ロシア語	ロシア語 Level 1b		柳沢 民雄	火(3)		20	前期から継続
	ロシア語 Level 2b		タチアナ ヤマザキ	金(4)		20	前期から継続
中国語	中国語 Level 1b		加納 光	水(2)		20	前期から継続
	中国語 Level 2b		前田 光子	月(3)		20	前期から継続
スペイン語	スペイン語 Level 1b		A. Villalobos	水(4)		20	
	スペイン語 Level 2b		川田 玲子	木(4)		20	
朝鮮・韓国語	朝鮮・韓国語 Level 1b		金 元榮	金(3)		20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		鄭 芝淑	火(4)		20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		飯田 秀敏	火(5)		20	前期から継続
ポルトガル語	ポルトガル語 Level 1b		重松 由美	木(2)		20	前期から継続
ラテン語	ラテン語 Level 1b		有川 貫太郎	水(4)		20	前期から継続
古典ギリシア語	古典ギリシア語 Level 1b		有川 貫太郎	水(5)		20	前期から継続
アイヌ語	アイヌ語 Level 1		小坂 光一	水(2)		20	
イタリア語	イタリア語 Level 1b		A. Sciucca	水(4)		20	前期から継続
ベトナム語	ベトナム語 Level 1b		金村 久美	金(4)		20	

注) 後期授業の使用教室については、「国際言語文化研究科全学向け授業案内 No. 63(2010年度後期発行)」に掲載します。

## 授 業 要 覧

### 〈外国語特別研修コース〉

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
特別英語 セミナー (Writing) a	MORITA CHUA LIANG	月(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this class is to help students develop their writing skills.</p> <p><b>授業内容</b> The Curriculum Cycle will be used in this class. The four stages of the Curriculum Cycle are: building up the field, modeling the text type, joint construction and independent writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Building the field. In this stage, the aim is to make sure that students have enough background knowledge of the topic to be able to write about it.</li> <li>2. Modeling the text type. In this stage, the aim is for students to become familiar with the purpose, overall structure and linguistic features of the type of text they are going to write.</li> <li>3. Joint construction. Here, the instructor and students write a text together, so that students can see how the text is written.</li> <li>4. Independent writing. At this stage, students write their own text.</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> Participation.</p>
特別英語 セミナー (Writing) a	MORITA CHUA LIANG	火(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this class is to help students develop their writing skills.</p> <p><b>授業内容</b> The Curriculum Cycle will be used in this class. The four stages of the Curriculum Cycle are: building up the field, modeling the text type, joint construction and independent writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Building the field. In this stage, the aim is to make sure that students have enough background knowledge of the topic to be able to write about it.</li> <li>2. Modeling the text type. In this stage, the aim is for students to become familiar with the purpose, overall structure and linguistic features of the type of text they are going to write.</li> <li>3. Joint construction. Here, the instructor and students write a text together, so that students can see how the text is written.</li> <li>4. Independent writing. At this stage, students write their own text.</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> Participation.</p>
特別英語 セミナー (Writing) a	POTTER SIMON R.	金(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this course is to get some experience in writing in English and, hopefully, to make some improvements in this skill.</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> Please make sure that you have met the university's requirements for taking this course.</p> <p><b>授業内容</b> Each week a chapter in the course book will be assigned, and the most important project will be to write an essay of about 300 words addressing the chapter or something in it. The essay will be due at the beginning of the class meeting for which it is assigned, and in-class activities will include such things as correcting previous essays and doing a couple of the chapter exercises.</p> <p><b>成績評価方法</b> 67% will be based on the weekly essays, and 33% on in-class activities and participation.</p> <p><b>教科書</b> The course book will be made available by the teacher from the first class meeting, and it is expected to cost less than 2001 yen (according to the purchasing power of the yen in December 2009).</p> <p><b>参考書</b> At least one dictionary that is useful for working with the English language is recommended.</p> <p><b>注意事項</b> Please note that no late essays will be accepted. This is so that the course can move along at a steady rate and so that the teacher does not get lots of essays all at once at an inconvenient time.</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> Please be prepared to put in a good effort and be ready to use the English language to write about a variety of serious topics. This will not be a remedial writing course, so the teacher will not be 'correcting' or otherwise working in a detailed manner with individual essays, but rather checking them for factual content, argumentative validity, creativity,</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
特別英語 セミナー (Writing) a	POTTER SIMON R.	金(2)	20	and such like. Also, please be advised that the teacher has had over twenty years of professional experience as a writer and editor in scholarly communities and learned the trades at a very high-level university and from an editor of a professional journal, so you might get some very good advice.
特別英語 セミナー (Presenta- tion) a	MORITA CHUA LIANG	火(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this class is to help students develop their presentation skills.</p> <p><b>授業内容</b> We will discuss the basic guidelines for designing a presentation and the delivery of the presentation. In addition, communicative competence is emphasised in this class. Communicative competence is what a speaker needs to know to be able to communicate correctly and appropriately. The following three aspects of communicative competence are particularly relevant:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Linguistic competence, which means that the forms, inflections and sequences used to express the message are grammatically correctly.</li> <li>2. Sociolinguistic competence, which means that the expression of the message is appropriate in terms of the person being addressed and the overall circumstances and purpose of communication.</li> <li>3. Discourse competence, which means that the selection, sequence and arrangement of words and structures are clear and effective means of expressing the intended message.</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> Participation and presentations.</p>
特別英語 セミナー (Presenta- tion) a	POTTER SIMON R.	水(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this course is to give students an opportunity to practice talking and making presentations in an educational or scholarly context.</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> Please make sure that you have fulfilled the university's requirements for registering for this course.</p> <p><b>授業内容</b> This course will emphasize oral presentations of an educational or academic nature. Students will be assigned one or two chapters in the course book to read before a class meeting and to be ready to do something pertaining to the chapter(s) in class. Activities during class sessions will include debates, teaching (explaining the reading material or something in it), making and acting out conversations, answering chapter questions, and free discussions.</p> <p><b>成績評価方法</b> In-class participation 67%, attendance 33%. Obviously the two criteria are related, so the quality of work done and attitude are important.</p> <p><b>教科書</b> A course book will be made available by the teacher from the first class meeting, and it is expected to cost less than 2001 yen (according to the purchasing power of the yen in December 2009).</p> <p><b>参考書</b> At least one dictionary for working with the English language is suggested.</p> <p><b>注意事項</b> Be prepared to participate and to consider a diverse range of themes.</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> The course requires an active use of the imagination as well as of the English language. The materials for reading range in difficulty, but they are designed to challenge students into thinking about a diverse set of topics which can be linked to academic disciplines in the natural sciences, social sciences, humanities, and even engineering, but more importantly to the human condition. In this sense, the course ties in with the spirit and purpose of a liberal-arts education.</p>
特別英語 セミナー (Presenta- tion) a	POTTER SIMON R.	木(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this course is to give students an opportunity to practice talking and making presentations in an educational or scholarly context.</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> Please make sure that you have fulfilled the university's requirements for registering for this course.</p> <p><b>授業内容</b> This course will emphasize oral presentations of an educational or academic nature. Students will be assigned one or two chapters in the course book to read before a class meeting and to be ready to do</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
特別英語 セミナー (Presentation) a	POTTER SIMON R.	木(4)	20	<p>something pertaining to the chapter(s) in class. Activities during class sessions will include debates, teaching (explaining the reading material or something in it), making and acting out conversations, answering chapter questions, and free discussions.</p> <p><b>成績評価方法</b> In-class participation 67%, attendance 33%. Obviously the two criteria are related, so the quality of work done and attitude are important.</p> <p><b>教科書</b> A course book will be made available by the teacher from the first class meeting, and it is expected to cost less than 2001 yen (according to the purchasing power of the yen in December 2009).</p> <p><b>参考書</b> At least one dictionary for working with the English language is suggested.</p> <p><b>注意事項</b> Be prepared to participate and to consider a diverse range of themes.</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> The course requires an active use of the imagination as well as of the English language. The materials for reading range in difficulty, but they are designed to challenge students into thinking about a diverse set of topics which can be linked to academic disciplines in the natural sciences, social sciences, humanities, and even engineering, but more importantly to the human condition. In this sense, the course ties in with the spirit and purpose of a liberal-arts education.</p>
特別英語 セミナー (Reading) a	MORITA CHUA LIANG	月(3)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this class is to help students develop their reading skills.</p> <p><b>授業内容</b> A variety of texts including news articles, articles on the internet and novels will be used in this class. We will discuss four types of reading skills: skimming, scanning, extensive reading and intensive reading.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Skimming is used to understand the gist or main idea.</li> <li>2. Scanning is used to find a particular piece of information.</li> <li>3. Extensive reading is used for pleasure and general understanding.</li> <li>4. Intensive reading is used for accurate reading for detailed understanding.</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> Participation.</p>
特別英語 セミナー (Reading) a	MORITA CHUA LIANG	水(3)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this class is to help students develop their reading skills.</p> <p><b>授業内容</b> A variety of texts including news articles, articles on the internet and novels will be used in this class. We will discuss four types of reading skills: skimming, scanning, extensive reading and intensive reading.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Skimming is used to understand the gist or main idea.</li> <li>2. Scanning is used to find a particular piece of information.</li> <li>3. Extensive reading is used for pleasure and general understanding.</li> <li>4. Intensive reading is used for accurate reading for detailed understanding.</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> Participation.</p>
特別英語 セミナー (Reading) a	POTTER SIMON R.	木(3)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> The aim of this course is to get some experience reading reasonably difficulty passages in the English language and to learn how to relate them to one's own life and/or society.</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> Please make sure that you have met the university's requirements for taking this course.</p> <p><b>授業内容</b> The precise contents of the reading materials were not available at the time of preparing this syllabus, so the details will be given in the first class meeting in April. Still, extracts from a variety of treatises dealing with politics, religion, philosophy, ecology, and so on will be made available for students to read. In some cases they will be assigned as homework, with at least one in-class activity being devoted to the assignment; otherwise, they will be given in class for quick reading and reacting to them through an in-class project.</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
特別英語 セミナー (Reading) a	POTTER SIMON R.	木(3)	20	<p><b>成績評価方法</b> 100% of the grade will be determined by doing the assignments (in terms of both quantity and quality).</p> <p><b>教科書</b> At the time of preparing the syllabus, only photocopied materials were envisioned. Still, if some materials have been collated into a book form, this will be mentioned at the first class meeting.</p> <p><b>参考書</b> At least one dictionary for working with the English language is recommended.</p> <p><b>注意事項</b> Doing the readings and the associated projects is very important.</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> Please do the readings and come to class prepared. This is a good chance to apply reading skills in an intellectual context, and you're most likely to get introduced to ideas etc. that would not normally be encountered in an English course.</p>
特別英語 セミナー (Certificate Tests) a	岩城奈巳	火(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 本授業は、主に留学を目指す学生を対象に、TOEFL 受験の準備を行う。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 英語に対する意欲。TOEFL-iBT で71点、(CBT:197、PBT/ITP:530) TOEIC:672点、英検準1級以上が望ましい。</p> <p><b>授業内容</b> 毎回、TOEFL に関する与えられた課題（リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング）について、取り組む。授業では、グループワーク、ペアワークを主に行い、クラスの仲間と協力し、共に学ぶスタイルを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：TOEFL とは</li> <li>2. 項目別に TOEFL を検証</li> <li>3. 時間をはかっている練習</li> </ol> <p>課題は毎回提出する。</p> <p><b>成績評価方法</b> 出席、授業態度を重視する。毎回の簡単なテスト、グループワーク、提出物と試験結果をあわせた総合評価をおこなう。</p> <p><b>教科書</b> 随時プリント配布またはウェブ使用する。</p> <p><b>参考書</b> 随時紹介する。</p> <p><b>注意事項</b> 遅刻厳禁。欠席3回で単位放棄とみなす。</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> この授業は留学を目指す学生が主に対象になります。個々の目標に向かってがんばって取り組んで下さい。また、一人で机にむかって黙々と与えられた課題に取り組むことは自分の時間に来るので、このクラスではクラスメートと情報交換をしたり、勉強法を学びあったりしながら本試験の準備に取り組んでいきます。</p>
特別英語 セミナー (Certificate Tests) a	松原 緑	木(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> TOEIC で更なる得点アップを図るためのボキャブラリー強化と、TOEIC テスト形式に慣れ、正答を導き出すコツをつかむことを目的とした TOEIC 対策講座。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> TOEIC 672点以上, TOEFL-ITP 530, TOEFL-CBT 197, TOEFL-iBT 71点以上が望ましい。</p> <p><b>授業内容</b> 毎回指定された範囲の単語テストと TOEIC 形式のミニテストを実施する。その後、解答・解説を行ういわゆるテストゼミ形式で授業を進める。</p> <p><b>成績評価方法</b> 授業参加度・単語チェックテスト・期末テスト</p> <p><b>教科書</b> 毎回プリントを配布する。</p> <p><b>参考書</b> 「TOEIC TEST 完全攻略3000語 - 目標スコア600-900」 Susan Anderton &amp; 中村紳一郎 (著) 出版社: 語研 ¥2,940 ※ 第1回目の授業までに生協にて購入しておくこと。</p> <p><b>注意事項</b> 欠席4回で受講放棄とみなす。</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> 資格試験には慣れも必要です。 一人ではなかなかかどらない試験対策も、ペースを決めて仲間と一緒に頑張れば、結果は自ずとついてくるはず。 自分なりの目標値を定めて、毎回真剣に取り組みましょう！</p>
ドイツ語 Level 1a	須藤 勲	水(1)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 新たにドイツ語を習う学生ばかりではなく今一度基礎からドイツ語をやり直したい学生も対象とする、ドイツ語の基礎を学ぶための科目です。バランスよくドイツ語を学べるよう基礎文法の学習だけではなく日常会話の</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ドイツ語 Level 1a	須 藤 勲	水(1)	20	<p>練習や平易な文章の講読も行います。また、ドイツ語世界が身近になるよう、視聴覚メディアなどを通じて文化・風俗・社会事情などについても学び、国際的視野を涵養する一歩としたい。目標は「ドイツ語に触れる」です。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 後期は高畑先生(火・1)が担当します。</p> <p><b>授業内容</b> 本授業ではドイツ語で書かれた簡単な文章をもとに、ドイツ語の初歩を学んでいきます。よくドイツ語は難しいと言われますが、それはドイツ語文法に曖昧さが少ないことに起因しています。一步一步、着実に学習していけば、ドイツ語は必ず身に付けられます。授業では、簡単に文法説明を行った後、練習問題を繰り返し行い、ドイツ語表現を身に付けられるようにします。また、授業中にドイツ文化紹介も行う予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語のアルファベット</li> <li>2. ドイツ語の発音の仕方</li> <li>3. 現在人称変化I</li> <li>4. 定冠詞と名詞・複数形</li> <li>5. 不定冠詞と冠詞類・並列接続詞</li> <li>6. 現在人称変化II・命令形</li> <li>7. 人称代名詞・前置詞</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> 期末試験80パーセント、出席20パーセント  <b>教科書</b> ともかく話そうドイツ語(小黒びるぎつた/日野安昭/佐藤方丈著、郁文堂、2500円)  <b>参考書</b> 独和辞典(どれを購入すべきかは授業中に説明する)  <b>注意事項</b> 独和辞典を必ず携行すること</p>
ドイツ語 Level 2a	M. Koch	金(3)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> この授業では、すでに習得したドイツ語の知識を用いて、日常的なドイツ語をさらに実践的に学習します。目標は「ドイツ語を活かす」です。口語表現力、聴解力を養成するために、授業ではできるだけドイツ語を用います。あわせて、ドイツ事情について学びます。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> ドイツ語初級能力を持っている学生のための授業です。</p> <p><b>授業内容</b> 自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 前期で学習する場面は、以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 旅行と交通(話法の助動詞、分離動詞)</li> <li>(2) レストランとホテル(話法の助動詞、不定冠詞4格)</li> <li>(3) 街で(序数、前置詞、定冠詞3・4格)</li> <li>(4) 天気(現在完了形、過去形 war、形容詞の比較級・最上級、従属接続詞と副文)</li> <li>(5) 病気と体の手入れ(再帰動詞、過去形 hatte、副文、話法の助動詞の過去、従属接続詞)</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> 平常点70%、期末試験30%  <b>教科書</b> 「Szenen2 integriert 場面で学ぶドイツ語」; 三修社  <b>参考書</b> 独和辞典および和独辞典  <b>注意事項</b> 学生と教師間の会話だけでなく、隣の人とペアを組んで対話をしながら表現を覚え、また文法規則を応用できるような授業を目指します。学生の積極的な授業への参加が求められます。家での復習が重要となります。CDやDVDも用います。</p>
フランス語 Level 1a	飯 野 和 夫	火(5)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> フランス語の基礎的な文法知識を獲得しつつ、それと同時に初歩的な運用能力も修得することを目指す。また、フランス語圏の社会と文化について、基礎的な知識を与える。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 新たにフランス語を始める学生のためのクラス。</p> <p><b>授業内容</b> 文法とコミュニケーションの要素を取り入れた総合的な教材を使い、週一度の授業で年間かけてフランス語の基礎を修得する。後期火曜5限の授業に接続する。文法項目は1年次の終わりに、初級文法を修了する。 週一コマのクラスであるが、この授業にきちんとついてきて、教科書を使って自習すれば、一年後にはフランス語の文章を読んだり、フランス語会話がそこそこできたりするまでになる。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
フランス語 Level 1a	飯野和夫	火(5)	20	<p>前期は下記のテーマを予定している。 自己紹介をする／会う約束をする／買い物をする／命令する／「～したい」／道をたずねる・教える</p> <p><b>成績評価方法</b> 平常点と筆記試験。 <b>教科書</b> 『ジュテーム・クラシック』大木充他著（駿河台出版社） <b>参考書</b> 授業中に指示する。 <b>注意事項</b> 定員は20名。 <b>受講者へのメッセージ</b> フランス語というと発音の難しさが強調されるが、意思疎通ができる程度の発音はさほど難しくない。単語は英語と同じ語源のものがたくさんあり、初学者も潜在的にはすでに多くのフランス語単語を知っていることになる。大学では受講者の知的好奇心を満たす本格派の授業が行なわれている。授業にきちんとついてくるなら、一年後にはフランス語の文章をそこそこ読め、口頭での基本的なやり取りができるまでにはなる。真剣に取り組んでほしい。</p>
フランス語 Level 2a	S. Tadokoro	木(5)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> この授業は、すでにフランス語の基礎知識を学習した学生を対象にし、各自がより実践的なフランス語運用能力を習得することを目指す。また、フランス語圏の社会・文化についてより深い理解を獲得できるようにする。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 全学部が対象。</p> <p><b>授業内容</b> 以下に記す諸テーマそれぞれについて、1) 聞き取り 2) 会話・作文、という二授業を行う。</p> <p>1) 聞き取り：ディクテを含めて、短文の正確な聞き取り、通じうる発音の習得、語彙の拡張、につとめる。</p> <p>2) 会話：文型練習、役割演技、自由対話、聞き取りなどの課題をこなすことによって、有用な表現を自分のものとし、実践に耐えうるフランス語を修得する。</p> <p>テーマ： ①フランスの諸地方、とくに Aquitaine 地方について ②フランスの教育、とくに週4日制について ③フランスの1年、とくに、休暇・祝日について ④将来の計画 ⑤フランスの社会問題、とくに若者の就職や麻薬中毒について ⑥環境問題について ⑦趣味や楽しみについて</p> <p>受講者の関心やレベルに応じて適宜変更したい。 フランス語検定試験3級レベルの合格を目指す。</p> <p><b>成績評価方法</b> 授業への積極的な参加（30%）、学期中に行う複数回の小試験（40%）、学期末試験（30%）。</p> <p><b>教科書</b> プリントを配布する予定。 <b>参考書</b> Le petit Larousse や Le petit Robert など、少しずつでもいいから、フランス語辞典を参照することが望ましい。これらは図書館でも閲覧できる。これ以外の参考書については、適宜授業の中で指示する。</p>
ロシア語 Level 1a	郡 敏子	火(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> ロシア語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくロシア語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行う。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することによりロシア語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「ロシア語に触れる」である。</p> <p><b>授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「この人は誰ですか?」: 所有代名詞（誰それの）など</li> <li>「知ってますか?」: 動詞の現在変化など</li> <li>「ノートは机の中です」: 名詞の前置格（場所の表現）など</li> <li>「私は東京から来ました」: 国籍・出身地の表現など</li> <li>「すみません、入っていいですか?」「今日は試験です」: 動詞過去形など</li> <li>「ロシア語はおもしろい」: 形容詞の性数変化など</li> <li>「頭は何のためにあるのでしょうか?」: 身体を表わす語彙など</li> <li>「ご兄弟はいらっしゃいますか?」: 所有の表現など</li> <li>「今私は東京にいます」: 手紙の表現など</li> <li>「紅茶とコーヒーどちらですか?」: 名詞の対格など</li> </ol>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ロシア語 Level 1a	郡 敏 子	火(2)	20	<p>11. 「どこいったの?」「これはおいくらですか?」: 買い物、食事の表現  12. 「お店はどこでしょうか?」: 運動の表現 (歩いて行く)  13. 「あしたは私は出張です」: 動詞の未来形など  14. 「5時に会いましょう」: 曜日、数字 (11以上)  15. 「私はあさってロシアへ行きます」: 運動の表現 (乗り物で行く)  <b>成績評価方法</b> 普段の授業での取り組み具合と定期試験で評価する。  <b>教科書</b> 米重文樹、ピョートル・トマルキン「話すロシア語入門」白水社  <b>参考書</b> 辞書は『博友社ロシア語辞典』『研究社露和辞典』『岩波ロシア語辞典』のうちから一冊を購入してください。  文法については、随時次のものを参照してください: 佐藤純一『NHK 新ロシア語入門 [CDブック]』日本放送出版協会。  <b>注意事項</b> 授業での口頭練習に積極的に取り組んで、楽しみながら着実にロシア語を身につけましょう。</p>
ロシア語 Level 2a	山 崎 タチアナ	金(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b>  この授業は、初級コースを終えた学生を対象にしています。ネイティブが担当しますので、生きた会話を授業の軸足とし、90分間を積極的な質疑時間として構成します。  目標は、ロシアの事情を把握しながら、自分のことを相手にロシア語で正しく伝えることができるようにすることです。  <b>授業内容</b> 言葉に表れている日本とロシアの生活スタイルの違いを追求しながらロシア語の表現と言い習わしを勉強します。具体的な流れは、以下のようになります。  1. テーマごとに聞き取りを行います。  テーマにまつわる生徒たちとの会話を行います。  2. 文法の復習を兼ねた練習問題をします。  15回分の授業詳細:  1. ロシアに留学する (本文)  2. 学ぶ、勉強する、研究する  3. ロシアの人名と地名  4. レジメの書き方  5. シャベる、話す、会話をする  6. 動詞から派生した名詞  7. 時の表現、日付  8. 知る、分かる、情報を得る  9. 思う、考える、思考する  10. 性格を表す形容詞  11. モスクワの歴史 (完了と不完了の動詞)  12. 意見を述べる時の表現 (1)  13. 名句を読む  14. 意見を述べる時の表現 (2)  15. 総合の復習  <b>成績評価方法</b> 評価の方法は、出席を重視すること、及び試験期間内のマンツーマンでの口頭試験乃至リポート提出、以上の2つの基準から成り立ちます。  <b>教科書</b> プリントを使用する。  <b>注意事項</b> 注意は、毎回辞書と文法表を持参すること。</p>
中国語 Level 1a	加 納 光	水(1)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b>  第二外国語として、初めて中国語を学ぼうとする学習者を対象とする。この授業においては、中国語の発音及び基礎的な文法事項を学習し、中国語の初級段階に必要な基礎学力の養成を目指す。  <b>履修条件・関連する科目等</b>  中国語 Level 1bはこの中国語 Level 1aを継続するものです。  <b>授業内容</b> 中国語 Level 1aの授業では、まず411の音節を、声調を伴って正確に発音できるよう指導した上で、基本的な文法項目を順次学習する。教科書の内容に関連して、中国の風俗・習慣・文化などの理解も促す。  具体的な授業内容は以下の通りである。  1. 中国語概説  2. 発音 (1) 単母音、声調 ほか  3. 発音 (2) 複母音、鼻母 ほか  4. 発音 (3) 子音、ピンイン表記の規則 ほか</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
中国語 Level 1a	加 納 光	水(1)	20	<p>5. 発音 (4) 儿化、変調 ほか  6. 挨拶表現のいろいろ、声調の組み合わせ ほか  7. 指示詞、人称代名詞 ほか  8. 動詞述語文、語気助詞 ほか  9. 形容詞述語文、程度副詞 ほか  10. 所有表現、存在表現 ほか  11. 時刻と時間表現、近接未来の表現 ほか  12. まとめ・復習</p> <p><b>成績評価方法</b> 平常点[出欠席、授業態度] (50%)と期末試験(50%)による。  <b>教科書</b> 『ようこそ、中国語の世界へ』 加納光・白木通・成戸浩嗣 (白帝社)  <b>参考書</b> 必要に応じて授業で紹介する。  <b>受講者へのメッセージ</b> 授業上の注意  ・日々の予習・復習を欠かさずに、楽しく学んでください。  ・発音の練習に多くの時間をかけてください。</p>
中国語 Level 2a	劉 欣	水(3)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b>  この授業はかなり高度な聴解力と口頭表現力など特定の運用能力にしぼって行われ、受講者の専門的要請にも対応できる高度な実践的運用能力の養成を目指す。  学習意欲が旺盛でなければ授業についていくことはできない。  目標は「中国語を活かす」である。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b>  中国語または中国に対して興味を持ち、且つ学習意欲が旺盛であること。  中国語の初級（発音・文法事項等）を習得していること。</p> <p><b>授業内容</b> この授業は中国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし、「習う中国語から使う中国語」を指向する。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の中国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。  したがって、口頭表現力、聴解力を養成するため、できるだけ中国語を使うようにしたい。  言語文化科目Ⅰ、中国語 Level 1に引き続き、さらに中国語世界の理解を深めていきたい。</p> <p><b>成績評価方法</b> 原則として学期末試験 (70%) 及び平常点 (30%) による。授業時における教員のアナウンスに十分注意すること。  <b>教科書</b> 随時、プリント教材を配布する。  <b>参考書</b> 必要に応じて授業で紹介する。  <b>受講者へのメッセージ</b> 授業上の注意  ・最初の授業でガイダンスを行います。  ・参考書についてはガイダンスで説明します。  ・高度な聴解力、口頭表現力の養成を目指すので、中国語の基礎的な力が身に付いていること、積極的に授業に参加することが受講の条件です。</p>
スペイン語 Level 1a	宮 下 克 子	水(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b>  スペイン語は三億人以上の人々によって話されている言語であり、国際化著しい今日の社会を舞台にめざましい活躍が期待される皆さんにとって、これを習得することは大変に有益なことと思われる。本授業においては、スペイン語の基礎文法を学ぶと共に、日常生活や旅行等に必要簡単な会話を身につけるべく、様々な教材を用いて多角的に学習を進める。テキストおよび映像による教材はスペイン及びラテンアメリカ諸国に関する情報を豊富に含むものであり、その雰囲気、文化、歴史等に対する学習者の興味を喚起することは間違いない。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b>  特にありません。初心者をも基本的に対象としますが、かつて学んだことがあるがあらためてもう一度スペイン語を学びたいという人も歓迎します。</p> <p><b>授業内容</b>  LECCION 1 「空港でタクシーに乗る折の会話」及び、母音、子音の読み方、音節、アクセント等、スペイン語の発音、読み方の学習。  LECCION 2 「ホテルのフロントでの会話」及び、男性名詞・女性名詞、複数形、冠詞、主格人称代名詞、動詞 ser の活用と用法。  LECCION 3 「大学の外人コース受付での会話」及び、動詞 estar の活用と用法、疑問文・否定文、形容詞。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
スペイン語 Level 1a	宮下克子	水(4)	20	<p>LECCION 4 「大学のキャンパスでの会話」及び、規則活用動詞の活用。国名・国籍。</p> <p>LECCION 5 「授業の中の会話」及び、tener, ir, venir の活用、数字、時刻の言い方。</p> <p>LECCION 6 「キャンパスでの会話」及び、語幹変化動詞の活用、その他の不規則動詞、直接・間接目的格人称代名詞。</p> <p>LECCION 7 「サッカー場での会話」及び、所有詞、指示語、比較級、最上級。</p> <p>及び、ビデオ (ESPAÑA VIVA) を用いて、挨拶、買い物、紹介、などの簡単な会話を学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法</b> 1. 出席状況 (30%) 2. 学習に向かう姿勢 (10%) 3. レポート (60%)</p> <p><b>教科書</b> ESPAÑOL VIVO (生き生きスペイン語) 福嶋教隆 朝日出版社</p> <p><b>参考書</b> 辞書：例えば『現代スペイン語辞典』白水社など。 授業時にプリント等を配布する。</p> <p><b>注意事項</b> 辞書に関しては、上記の『現代スペイン語辞典』に限るものではない。スペイン語を学習する上での各々の意図に応じて、あるいは好みに沿って選んでください。</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> *授業時には辞書を携帯し、熱意を持って学習に臨むことを期待する。</p> <p>スペイン語の読み方は、所謂ローマ字読みであり、日本人にとってはさほど難しいものではない。特別な読み方は、ほんの数種類に過ぎない。またあまり発音を気にしなくとも、ネイティブの人々に理解してもらえる。そういった意味では、我々にとって比較的近づきやすい言語と言えよう。主語を省くことができ、語順にも柔軟性がある。名詞に性があること、形容詞が後置されることなどは、英語と異なっている。また表現する際の発想においては、英語に比べると、より日本語に近いように思う。</p> <p>スペインは世界遺産の多い国として知られている。イスラム支配の影響もあり、ヨーロッパの中でも際立って個性的な文化を育んできた。造形に優れた民族であり、殊に近代においてはピカソ、ダリ、ミロといった優れた芸術家を輩出している。建築家ガウディも、また、彼が設計し今も建築途上の大聖堂「サグラダ・ファミリア」も大変に有名である。音楽の分野でもグラナドスやタレガといった作曲家、イェベス、セゴビアといった世界的な演奏家を生んできた。絵画、音楽、建築に興味を持つ人々にとっては興味尽きない国であろう。サッカーファンは、リアル・マドリードやバルサの国として親しみを感じるはずである。また、アルモドバル、アメンナバルといった新しい感性を持った監督による映画作品も世界の注目を集めている。</p> <p>ラテンアメリカ諸国は、成熟途上の国特有の魅力に満ちた社会を有している。そこには神秘的な自然と、日本に住む我々の想像を超える現実が存在している。その経済・政治に興味を抱く人は多いであろう。音楽、文学といった文化の面でも、多様な展開を見せている。スペイン語を学ぶことは、こうした魅力的なスペインやラテンアメリカ世界に近づく確実な一歩となるはずである。</p>
スペイン語 Level 2a	川田玲子	木(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> スペイン語 Level 1で身につけたスペイン語の知識をもとに、スペイン語力のさらなる向上を目指す。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> スペイン語 Level 1の授業を終えている、もしくはそれに相応する基礎知識を有すること。</p> <p><b>授業内容</b> この授業では、初級文法知識を有する参加者を対象に中級文法の学習と会話練習および講読をおこなう。 文法事項の説明に関しては受講者の状況のみを柔軟に対応するよう心がける。今のところ、動詞の過去時制 (点過去と線過去、過去完了) と未来時制 (未来、過去未来、未来完了、過去未来完了) および接続法現在時制・過去時制を中心に毎回30分程説明する予定である。 残りの時間で会話・講読といった実践力を高める練習をおこなう。毎回の講義で1. 日常生活に関する簡単な Lectura や Dialogo を読む。2. 表現コーナーを設け、テーマに関連するスペイン語特有の表現を学ぶ。3. Lectura や Dialogo のテーマに関して質疑応答をする。会話練習は2~4人</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 2a	川田 玲子	木(4)	20	<p>のグループ形式でおこなう。 参加者は適宜配布される Lectura や Dialogo を読んでくること。 なお、毎回最後に簡単な作文を書く。</p> <p><b>成績評価方法</b> 出席、授業への積極的な参加、随時おこなう理解状況確認小テスト、定期試験（70%）など総合的に評価する。</p> <p><b>教科書</b> 教官が必要資料を予め配付する。</p> <p><b>参考書</b> 寿里順平著『スペイン語の表現』東洋書店、寿里順平著『応用スペイン語文法』東洋書店 高橋覚二著『スペイン語表現ハンドブック』白水社、高橋覚二著『基礎スペイン語便覧』評論社、宮本博司著『スペイン語分類単語集』大学書林、山田義郎監修『中級スペイン語文法』白水社</p> <p><b>注意事項</b> 毎回西和辞典を持参すること。</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> 「どうしてスペイン語を学ぼうと思ったのか」と学生に聞かれることがある。私の場合は、ちょっとしたきっかけからスペイン語圏の文化を知りたいと思うようになり、スペイン語を熱心に勉強し始めた。したがって、スペイン語は目的を達成するための手段であった。メキシコの大学院へ入学し、メキシコ人学生とともに授業を受けることとなった。当然のことながら、スペイン語の読み書きが十分にできなければ話にならなかった。入学前の語学学習では、「この表現は英語と違う」「日本語ならばこういう表現になる」などと考える余裕などなく、とにかく文の内容を理解し実際に使うという方法をとった。それが最も手取り早い学習方法であった。日常会話のなかで子供が言語を覚えていくように、相手が使った表現を繰り返す。新聞や本で目にした表現をそのまま使うなどした。それが幸いしたのか、ずいぶんナチュラルなスペイン語表現を身につけることができたようだ。</p> <p>日本ではスペイン語と接する機会があまりない。そこでお勧めするのが映画鑑賞である。スペインはじめ、ラテンアメリカ諸国で製作された評価の高い映画がたくさんある。一度覗いてみてはどうだろう。実際にスペイン語を聞く事ができるし、さらにスペイン語圏の社会や文化、独特の考え方など多くのことを学ぶことができる。その他、日本映画のスペイン語字幕版や吹き替え版を見るのも面白い。日本語とスペイン語の表現の違いがよくわかる。こちらは日本では手に入らないと思うので、私の方に申し出ていただきたい。その他、スペイン語版漫画「トムとジェリー」もあるので、読みたい方は申し出るように。 ¡Disfrutemos en la clase!</p>
朝鮮・ 韓国語 Level 1a	崔 昇 浩	金(3)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 新たに朝鮮・韓国語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、朝鮮・韓国語の基礎を学ぶための科目である。 バランスよく朝鮮・韓国語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なう。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「朝鮮・韓国語に触れる」である。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 朝鮮・韓国語 Level 1b まで履修することが望ましい。</p> <p><b>授業内容</b> この授業では次のような能力を養成する。 書記法…ハングル（朝鮮・韓国文字）の構成を理解し、確実にかつ美しく書けるようにする。発音…韓国語の母音と子音を正しく発音し聞き分けられるようにする。特に、日本語にはない終声（パッチム）や平音・濃音・激音の区別などに慣れるように練習する。また、朝鮮・韓国語リズムやイントネーションで文章を発話できるようにする。 ハングルを正しく読むための音韻規則のうち連音化、有声化、鼻音化など基本的なものを着実にマスターする。</p> <p><b>文 法</b>…初歩的文法を学習する。 学習する主な文法事項は次の通りである。 ・用言の種類による文種（指定詞文・存在詞文・形容詞文・動詞文） ・機能別の文種（平叙文・疑問文・命令文・勧誘文・感嘆文） ・否定文（長い否定と短い否定） ・数詞（漢数詞・固有数詞） ・基本的な助詞（「は」「が」「を」「も」「に」「で」「から」「まで」「と」などに相当するもの）</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
朝鮮・韓国語 Level 1a	崔昇浩	金(3)	20	<p>・文体（あらたまった丁寧体・くだけた丁寧体） ただし、機能別の文種のうち命令文、勧誘文、感嘆文、文体のうちくだけた丁寧体については、必要に応じて簡単に習う程度にとどめる。それについて詳しくは初級朝鮮・韓国語2で学習する。 口頭表現力…日常よく用いられる典型的な挨拶表現などを適切に使えるようにする。</p> <p><b>成績評価方法</b> 出欠状況、小テスト及び期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験の成績が総合成績に占める割合は6割程度とする。</p> <p><b>教科書</b> 自家版教材およびプリント教材（教室で配布する） <b>参考書</b> 必要なものは授業中に指示する。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2a	李光濟	金(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する科目である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。 また、言語文化Ⅰあるいは朝鮮・韓国語 Level 1に引き続き、さらに朝鮮・韓国語世界の理解を深める。目標は「朝鮮・韓国語を活かす」である。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 言語文化Ⅰあるいは朝鮮・韓国語 Level 1の履修者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくてもかまわない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p><b>授業内容</b> この授業では朝鮮・韓国語 Level 1あるいは言文Ⅰの学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現を使えるようにする。 学習事項は、次のような表現形式である。（ただし、順不同。時間の都合により項目の出し入れもある）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 疑問…知りたいことを相手に尋ね、またそれに答えるための種々の表現形式を学習する。疑問形式は対話において最も重要な役割を果たし、ヴァリエーションも最も豊富であるので、特に重点を置いて練習する。</li> <li>2) 否定…陳述を打ち消すための表現形式を学習する。</li> <li>3) 感嘆…感情を込めて表現するための形式を学習する。</li> <li>4) 依頼・指示・禁止…相手に何かをさせよう、あるいはほしくないようにするための表現形式を学習する。</li> <li>5) 願望…自分がやりたいことを相手に伝える、あるいは相手の願望を尋ねるための表現を学ぶ。</li> <li>6) 勧誘・提案…相手と共同して何かをしようというときに用いる表現を学習する。</li> <li>7) 意志・予定…意思や予定を表す種々の表現に習熟する。</li> <li>8) 推量・推測…出来事を推し量るときの表現形式を学習する。</li> <li>9) 引用・伝聞…他人の言説を別の人に伝えるときの表現形式を学ぶ。</li> <li>10) 可能・不可能…能力の有無、許可のあるなしを表す表現を学習する。</li> </ol> <p><b>成績評価方法</b> 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験は韓国語による面接試験とし、その総合評価に占める割合は6割程度とする。</p> <p><b>教科書</b> プリント教材。 <b>参考書</b> 必要な物は授業で指示する。 <b>注意事項</b> 日韓辞典を必ず用意すること。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2a	飯田秀敏	火(5)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 朝鮮・韓国語中級の授業などを通じて文法の基礎をすでに習得しある程度の読解能力を持つ者が、さらに高度な実践的読解能力を養成するための授業である。文法的理解は前提としつつも精読よりは多読に重点を置く。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 受講者は、中級朝鮮・韓国語をすでに履修していることが望ましいが、相応の力があればその限りではない。また、後期の授業を引き続き履修することが望ましいが、前期だけの履修も可能である。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
朝鮮・韓国語 Level 2a	飯田 秀敏	火(5)	20	<p><b>授業内容</b> 授業は次の要領で行う。</p> <p>(1) 授業は演習形式で行う。受講者全員にテキストの担当箇所を割り当て、分担者は授業において担当箇所を音読し意味内容の解説を行う。教員および他の受講生は随時質問しコメントを加えることとする。</p> <p>(2) 担当者は授業に先立って定められた期日までに担当箇所の日本語訳を教員までメールで送る。教員は日本語訳をチェックした後、受講者全員にメールで配信する。受講者はそれをプリントアウトし、あらかじめ目を通した上で授業に持参する。</p> <p>(3) その後の授業は、メールで配信されるテキストに基づいて行う。</p> <p>(4) 韓国語の読解力をつけるには、文法的知識と語彙力との両方を養わなければならない。語彙力に関しては、特に漢字語に力点を置いて学習する。そのために、授業予定箇所に現れる漢字語彙に関する補助教材を、日本語訳の配信と同時に教員から受講者全員に配信する。</p> <p>(5) 以上の準備ができるまで2回程度の授業は、授業のガイダンスに引き続き教員主導で行う。</p> <p>(6) テキストには、論説文、新聞・雑誌記事、エッセイなどを用いる。</p> <p><b>成績評価方法</b> 平常点および期末試験により総合的に評価する。期末試験の占める割合は6割程度とする。</p> <p><b>教科書</b> テキスト、および補助教材は原則としてメールで配信する。</p> <p><b>参考書</b> 必ず日韓辞典を購入しておくこと。</p> <p><b>注意事項</b> メールで教材のやりとりをするのでメールが使えるようにしておくこと（携帯メールは不可）。事情によりできない場合は、あらかじめ教員に知らせること。</p>
ポルトガル語 Level 1a	重松 由美	木(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 本授業は、初めてポルトガル語を習う人だけでなく、あらためて基礎から学び直したい人も対象としている。ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介、在日ブラジル人に関する情報も提供していきたい。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 特になし（院生及び教職員も受講の対象とする）。</p> <p><b>授業内容</b> ポルトガル語 Level 1の授業は、基本的にはテキストに基づいて進めていくが、DVDやインターネットなどの映像も用いる予定である。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行う。また、状況を設定して日常会話の練習を行い、基礎的な会話力を身に付けていく。そして、身の回りのポルトガル語（公共施設やスーパーなどでの標記など）を紹介し、それらが在日ブラジル人の状況をどのように反映しているかを学んでいきたい。</p> <p><b>成績評価方法</b> 授業への参加態度と定期試験の結果が総合的に判定される。</p> <p><b>教科書</b> 「ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語初級」兼安シルビア典子、同学社</p> <p><b>参考書</b> 葡日・日葡辞書が必要である。参考：『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。</p> <p><b>注意事項</b> 毎回、辞書を持参すること。</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> 私はスペイン語の知識を持っていることから、スペイン語既習者には両言語の相違点や共通点を比較して説明することができる。この教授法により、効果的にブラジルポルトガル語を習得できるであろう。</p>
ラテン語 Level 1a	有川 貫太郎	水(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> ラテン語をなるべく現代の外国語のように学ぶ、というのがこの授業のコンセプトである。古典語の学習はかなりの量の語形変化の習得を伴うが、日常使われる言葉として学んでいくことによってその負担をあまり意識せずに息長く続けることをめざしている。この教材の全体は、ローマ時代にタイムスリップして「生きた」言葉としてラテン語を学び、最終的にはヴェルギリウスなどの作品の原典に至る構成になっている。この授業はラテン語学習のその長いプロセスへの導入をめざす。ラテン語を学ぶことは、文系理系を問わず、西欧文明の基底に触れる機会になるだろう。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> 自由に参加してください。ただし参加した以上は休まないことが大切です。</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ラテン語 Level 1a	有川貫太郎	水(4)	20	<p><b>授業内容</b> 教材は、古代のポンペイを舞台にしている。商人カエキリーウス（実在した人物で、ポンペイに行けば今でもその家の跡を見ることができるとその家族（妻、息子、使用人など）が登場し、彼らの生活と市民たちの日常が紹介されていく。時あたかも紀元79年、やがてヴェスヴィオス火山が爆発して・・・教材全体はユニット1から5まであり、ユニット5ではラテン語の原典を扱っているが、この授業では前後期2学期ではじめの第1冊、ユニット1（全12課）を終了する予定である。学習内容にあわせてローマの文化や社会が多くの写真とともに紹介されている。ラテン語の背景となっている古代ローマ社会にいつそう興味をおぼえることだろう。なお、文法書も併用し、文法の概略を説明する。</p> <p><b>成績評価方法</b> 平常点（出席、課題提出）と期末試験によって総合的に評価する。</p> <p><b>教科書</b> 1) CAMBRIDGE LATIN COURSE UNIT 1 (North American edition) 2) 中山恒夫「標準ラテン文法」(白水社)</p> <p><b>参考書</b> 授業で紹介する。またインターネットでもラテン語学習に役立つサイトがある。</p> <p><b>注意事項</b> 教材1)は原則として各自ネットで購入してください。方法については授業でも紹介します。必ず North American edition を購入のこと。</p>
古 典 ギリシア語 Level 1a	有川貫太郎	水(5)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> 古典ギリシア語を現代の外国語のように学ぶ、というのがこの授業のコンセプトである。使用する副教材もそのような方針で作られている。古典作品を巧みにアレンジした教材を読みながら、さながら古代ギリシアにタイムスリップして、当時の「生きた」言葉として学ぶように工夫されている。ギリシア文明はヨーロッパ文化の基底のひとつで、その重要性は改めて述べるまでもない。卑近な例では私達の日常語にもギリシア語由来の語が意外に多くみられる。パソコン関連ではディスク、アイコン、メガなども。ギリシア語の学習は文系理系を問わず、欧米の学問や文化の源流を知る上で有用なものになるだろう。</p> <p><b>授業内容</b> 主教材によって文法のアウトラインを説明し、副教材のリーダーによってやさしい対話とナレーションからなるギリシア語の実際にふれていく。副教材の内容：黒海から荷物をのせた船が今アテネの港ピレウスに入ろうとしている。途中から吟遊詩人も乗りこんできた。遠くには女神アテネ像が燦然と輝くアクロポリスの丘も望まれる。その船上のシーンからこの教材は始まる。「こちらに来てごらん、アクロポリスがなんときれいだろう。」教材は次第に原典の要素が多くなり、最終章はホメロスの「オデュッセイア」の数節である。この授業はそこに至る長い道のりの導入になることを願っている。</p> <p>副教材には朗読CDもあるので、耳からも「生きた」ギリシア語に触れ、自分でもなるべく発音してほしい。</p> <p><b>成績評価方法</b> 平常点（出席、提出課題）と期末テストによって総合的に評価する。</p> <p><b>教科書</b> 1) 水谷智洋「古典ギリシア語初歩」(岩波書店) 2) Reading Greek: Text and Vocabulary (second edition)</p> <p><b>参考書</b> 授業で紹介します。</p> <p><b>注意事項</b> 教材2)はJoint Association of Classical Teacher's Greek Course. Cambridge University Press. 原則として各自ネットで購入。方法については授業でも紹介する。必ず second edition を購入すること。</p>
オランダ語 Level 1	小坂光一	水(2)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b> なるべく多くの言語に触れていただくことを目的としている。</p> <p><b>履修条件・関連する科目等</b> もっぱら口頭練習をするので、毎回出席できることが履修の条件となる。</p> <p><b>授業内容</b> オランダ語は英語とドイツ語の中間のような言語である。従って、英語かドイツ語のできる人にとっては極めて学びやすい言語である。両方知っていればなお学びやすい。すなわち、語彙に関して言えば英語とかなり似ている。フランス語的な単語も散見される。文法の面ではドイツ語とよく似ている。ほとんど同じと言っていいくらいである。ただし、発音は独特である。だから、一番むずかしいのは発音かもしれない。この授</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
オランダ語 Level 1	小坂 光一	水(2)	20	<p>業ではオランダ語会話入門とでもいうべき授業をし、オランダ語会話への導入を図りたい。</p> <p>授業の進行は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単語ごとの練習</li> <li>2. センテンスごとの練習 (初めはコンマごとに区切って練習する)</li> <li>3. スピードをある程度守った練習</li> <li>4. 文法事項を扱った練習</li> <li>5. プリントを使った、かなり自然な会話テキストの練習</li> <li>6. 期末近くになって、なお時間に余裕がある場合はプリントを使って総合練習をする。</li> </ol> <p>予習は特に必要としない。ほとんどを授業中に解決するという心構えを持って欲しい。</p> <p><b>成績評価方法</b> 授業に対する平常の貢献度(30%)、授業中の積極性(40%)、普段の口頭表現のできばえ(30%)。ただ参加するだけでは良い評価は得られない。</p> <p><b>教科書</b> 『ニューエクスプレス オランダ語』(白水社)及びプリント教材</p> <p><b>参考書</b> 『オランダ語辞典』(講談社) 授業のためには必要ありません。</p> <p><b>注意事項</b> 授業に来たり来なかったりする人、授業中にただ聞いているだけの人は絶対にお断りします。</p> <p><b>受講者へのメッセージ</b> 外国語というのは完璧をめざしたら使えるようになりません。間違いを恐れずに思い切ってオランダ語を口にする練習をしましょう。母語でない以上完璧になるはずがないと思って練習してください。予習は通常は必要ありません。むしろ復習に重点を置いて下さい。</p>
イタリア語 Level 1a	A. Sciucca	水(4)	20	<p><b>本授業の目的およびねらい</b></p> <p>旅行、留学などでイタリア滞在を考える学生に基本的な会話表現を習得してもらうとともに、イタリア理解の入り口を提供することをねらいとする。具体的には、空港、ホテル、買物などの場所において自分の要求を伝えるのに必要な表現を自在に用い、それに対して予測される返答を確実に理解することをはじめ、最終的には、様々な場面におけるイタリア人の思考・行動の特性を感じ取るための言語的な基盤を作ることを目指す。</p> <p><b>授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、アルファベットおよび数詞</li> <li>2. 名詞(男性・女性)とその活用</li> <li>3. 冠詞(不定冠詞・定冠詞)</li> <li>4. 形容詞(第一種形容詞・第二種形容詞)</li> <li>5. 動詞(are/ere/ire 動詞)と直説法現在形(規則動詞)</li> <li>6. 動詞(are/ere/ire 動詞)と直説法現在形(不規則動詞)</li> <li>7. 前置詞</li> <li>8. 直接代名詞</li> <li>9. 再帰動詞(are/ere/ire)の直説法現在形(規則動詞)</li> <li>10. 過去分詞(規則動詞・不規則動詞)と近過去(are/ere/ire)</li> <li>11. 他動詞と自動詞</li> </ol> <p>* 随時、映画やTV番組の中から会話を抜粋し、生きたイタリア語表現に触れるとともに、イタリア人の価値観や志向、行動様式などについて考える機会を与える。</p> <p>* 中間期にミニテストを実施する。</p> <p><b>成績評価方法</b> 期末テスト60%、中間ミニテスト20%、出席状況・履修態度20%</p> <p><b>教科書</b> Loredana Chiappini &amp; Nuccia De Filippo 「Un giorno in Italia」vol.1 (L'italiano per stranieri: Bonacci editore)</p> <p><b>参考書</b> 必要に応じて授業で紹介する。</p> <p><b>注意事項</b> イタリアは深い歴史と文化を持った国です。表層的なイタリア理解に終わらぬためにも、熱意を持って授業に取り組んで下さい。</p>

## 2010 年度前期 全学向け授業シラバス

●科目名 ベトナム語 Level 1a

●主担当教員名 金村 久美

●開講時期 曜日時限 前期 金曜 4 時限

●本授業の目的およびねらい

ベトナム語を初めて学ぶ受講生を対象に、ベトナム語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。バランスよくベトナム語を学べるよう、文法の学習だけでなく、日常会話の練習も行う。これに加え、文化、風俗、習慣、地域の特徴などについても学び、国際的視野をかん養する一歩とする。目標は、ベトナム語に親しむことである。

●履修条件あるいは関連する科目等

- ・学部生・大学院生の他、日本語のわかる留学生、職員の受講も歓迎する。
- ・予備知識は必要としない。

●授業内容

- ・表記や文法の学習は最小限にとどめ、実践的な聴解・会話スキルを中心に教える。
- ・ベトナム人と実際に話し合う機会を設け、学んだことを実践する。
- ・ベトナム紹介においては、受講生の興味関心に対応し、主体的な学びを支援する。
- ・テキスト「日本人のためのベトナム語の発音レベル1」に従い、表記と発音の基本的なルールを学ぶ。
- ・ベトナムを旅行する上で最低限必要なことばの知識（挨拶、数字、交通手段の利用、買い物など）を学び、会話の実践練習をする。
- ・ベトナムの魅力を知るための歴史、各地方の特徴、文化を紹介する。

●成績評価の方法

- ・毎回の小テスト 60%
- ・期末試験（筆記試験、会話試験を行う） 40%

●教科書

- ・教材は授業内で配布する。

●参考書

辞書・参考書に代わるものとして、次の図書を手元に置くことを勧める。

- ・池田浩明（2006）「旅の指さし会話帳11ベトナム（ベトナム語）第二版」（情報センター出版局）
- ・「地球の歩き方ベトナム 2009～2010」（ダイヤモンド社）

●注意事項

- ・受講生参加型の授業とする。クラス内で動き、考え、話し合うことを楽しんでほしい。